

第四章 第四百十九師團の状況

第一、師團の編成より蘇聯参戦迄の状況

一、師團は關東軍最後の動員部隊として昭和二十年七月三十日其の編成を完結し、第四軍の戦斗序列に入らしめらる。

二、配置

齊々哈爾

師團司令部

師團通信隊

師團挺進大隊

歩兵第二七四聯隊（一小隊欠）

歩兵第三八七聯隊

野砲兵第一四九聯隊

工兵第一四九聯隊（後富拉爾基へ移駐）

輜重兵第一四九聯隊

師團兵器廠

師團病馬廠

獨立野砲兵第十大隊（指揮下）

北 安

歩兵第三八六聯隊（一大隊欠）

泰 安 嶺

歩兵第三八六聯隊の一大隊

訥 河

歩兵第二七四聯隊の一小隊

三 作戰準備

1. 防禦計畫

師團は軍の企圖に基き齊々哈爾防衛の爲附屬の如く計畫せしも
着手に至らずして開戦となる。

2. 教育、訓練

師團の編成要員は主として在滿召集兵を以て充てられたる関係上老齡者、未訓練兵等其の大部を占めたるを以て逐次到着する應召兵に對し應急的に對戰車戰鬥、射擊術劍術等の必須戰技の教育を施したり。

3. 情報収集

主として軍司令部に依存せるも師團は又齊々哈爾地蘆防衛司令部なりしを以て地區内の情報収集に關し憲兵隊及滿洲國警察を區別して實施す。

四 編制、裝備

1. 人員の充足

七月三十日編成完結迄に師團定員の概ね $\frac{2}{3}$ を充足す。

2. 兵器資材の狀況

軍司令部の援助により野砲兵聯隊の火炮及歩兵聯隊の重火器の一部を除き概ね裝備を完了せり。

第三對蘇作戰實行期の状況

一、蘇聯参戦直前の態勢

1. 兵力配置

第一の二に記述せるものと同じ。

2. 戦力状況

幹部は上級者以外召集老齢の者多く下士官以下亦在滿應召者其の主力を占め一部朝鮮人未教育兵を含み教育訓練を施す時日無く裝備亦良好ならず戦力は下位にありたり。

三、蘇聯参戦當時の状況

1. 一般の状況

編成完結直後にして師團長は一應隸下指揮下各部隊の巡閱を終り、防衛計畫に基き各部隊に築城擔當地域を配當し、各部隊は概ね其の經始を終了したる直後蘇聯の参戦を見たり。

2. 敵情

開戦當日蘇軍爆撃機は單機を以て二、三回飛來し齊々哈爾市の外部に一、二發宛の威赫的爆撃を實施し短時間にして退去せり。

3. 情報

開戦後に於ける海拉爾及五又溝方面の情況は軍司令部を通じ適時知ることを得たり。

特に五又溝方面よりする敵機械化部隊の侵入は師團の南側に對する脅威として最も注意を拂ひたり。

4. 処置

イ開戦と同時に地區内對空監視哨の緊急配備を命じ司令部情報班は既定計畫に基き齊々哈爾市内日本人學生の援助を得て情報蒐集の態勢を完備して活動を開始す。

ロ師團長は兵力と工事の使用し得る時間とを願慮し齊々哈爾に於ける防衛陣地線を附圖の如く直接齊々哈爾市外郭に変更するに決し軍司令官の認可を受け直ちに各部隊に命じ之が工事

に着手せしめたり。

八〇

ハ敵小部隊の潜入と住民の動搖を顧慮し特に開拓民掩護の爲歩兵第二七四聯隊より約一中隊（MG）を附すを甘南に派遣す。

ニ嫩江橋梁守備の爲め歩兵第三八七聯隊より約一小隊を齊々哈爾濱富拉爾基道上の橋梁（大橋）に派遣す。

ホ軍被服倉庫守備の爲め歩兵第三八七聯隊より約一小隊を派遣す。

ヘ工兵第一四九聯隊をして富拉爾基鐵道橋を守備せしむ。

ト鐵道警備の爲め歩兵一小隊を裝甲列車に搭乘訥河・齊々哈爾濱江橋頭を巡邏せしむ。

チ憲兵隊をして人民の動搖を警戒せしむると共に特に滿軍の動靜に注意せしむ。

リ滿洲國警察をして人民の動搖を警戒せしむると共に特に興安方面よりする敵機械化部隊の侵入に對し情報収集に努めしむ。

0815

齊々哈爾市長及日本人會長其の他日本人要人を集め日本人非
戦闘員の避難を勸告したる処彼等は頑として踏み止ることを
主張し、結局婦女子のみの任意避難を承引し、其の退去順序
を十三日以降左の如く規整せり。

一、日滿軍人及滿鐵社員家族

二、日滿官吏家族

三、日本人一般婦女子

ル海拉爾方面避難民收容の準備をし十日以降市會館其の他に收
容せり。

ヲ滿軍司令官を招致し特に部下の確實なる掌握を期望す。

ウ在齊々哈爾各部隊を指揮し防衛の完璧を期せしむ。

三、爾後の行動

ノ八月十一日五命令により師團の一部（師團通信隊の主力、

歩兵第三八七聯隊、野砲兵第一四九聯隊の一大隊、獨立野砲兵

八一

大隊等一を軍の直轄たらしめられ、該部隊は軍司令部と共に十
八二
三日哈爾濱に移動す。

2. 同時に在富拉爾基工兵聯隊を齊々哈爾に招致集結せしむ。

3. 八月十四日軍命令により師團は工兵聯隊、輜重聯隊、兵器廠、
病馬廠及甘南、大橋、各派遣隊並に鐵道警備小隊を齊々哈爾に
殘置し他の主力を師團長直接指揮し列車に依り哈爾濱に向ひ出
發す。

此際師團長は戦争の長期に亘るべきことを慮慮し全員上裝各被
服に着換入且つ列車積載量の許す限り多量の被服（防寒被服を
含み）を携行せしめたり。

齊々哈爾地區防衛司令官は在嫩江獨立混成第一三六旅團長土屋
少將と交代す。

但し同少將嫩江より到着迄齊々哈爾憲兵隊長之を代行す。

5. 列車移動中八月十五日午後二時頃懸東驛（哈齊濱西方約六十軒）

0817

此於て終戦を聞知したる後哈爾濱に到着す。

四、彼我の損害

全然交戦せず損害なし。

五、終戦時の情況

一、態勢並戦力

イ、兵力配置

哈爾濱

師團司令部

師團通信隊

師團挺進大隊

歩兵第二七四聯隊（約一中隊欠）

歩兵第三八七聯隊（約一小隊欠）

野砲兵第一四九聯隊

齊々哈爾濱及其の附近

歩兵第二七四聯隊の約一中隊

歩兵第三八七聯隊の約一小隊

工兵第一四九聯隊

輜重兵第一四九聯隊

師團兵器廠

師團病馬廠

北安及其の附近

歩兵第三八六聯隊

口 戦 力

變化なし但し朝鮮人兵は終戦後軍命令に依り召集解除せり。

2. 蘇軍との交渉

ハ爾濱に於ける蘇軍との交渉は軍司令部之に當り師團として直接折衝せるは八月二十三日蘇軍の掌握に入りたる時を以て始めとす。

0819

八月二十三日早朝蘇軍將校は日本軍通譯將校を伴ひ李家屯兵營に來り直ちに少量の荷物を携行出發すべきを命ず。此際蘇軍將校は「日本軍は一應牡丹江附近に集結の後日ならずして日本に送還されん」と述べたり。斯くて將兵一同は半信半疑乍らも歸國に一縷の望みを囑し、平靜迅速に出發準備を整へたり。之より先師團長は八月二十三日軍司令部よりの通達により飛行機にてハバロフスク方面に拉致せらる。

3. 爾後の推移

師團主力（人員概ね五、〇〇〇名）は蘇軍の護衛下に阿城―横道河子間汽車、爾後海林迄徒步行軍を以て八月二十七日海林に到着該地元兵器廠に收容せらる。

本行軍間屢く蘇軍兵士（衛兵以外の）の爲め携行品を掠奪せられ又避難日本人（主として開拓團員家族）の悲慘なる姿を目撃せり。

又李家屯出發以來警戒を加へつゝありしに拘らず逃走者多數を
出し海林到着時の人員約四、四八〇名なり。海林收容所に收容
せられたる人員は第四軍關係の大部及第五軍の一部其他兵員
三、四万人、地方人二、三万人に及べり。

師團より九月中旬以後十月中旬頃迄の間左の如く作業大隊を編
成何処かへ逐次送られたり。

一、〇〇〇名大隊 三

六四〇名大隊 一 計 約四、二〇〇名

混成大隊 一

殘餘の將校及一部下士官兵一部隊長等には一名宛當番兵を附す
ることを許さるゝは十月十三日牡丹江收容所に移転。十一月六
日牡丹江出發汽車にて蘇領に移送、十二月一日モスクワ東南方
約四六〇軒タムボフカ州ラーダ收容所に、翌昭和二十一年七月
エウラカ收容所に移転二十二年十月より逐次帰還せしめられた

0821

第三、其の他の状況

一、在留邦人、開拓團の状況

1. 在留邦人

齊々哈爾及海拉爾方面在留邦人に對する処置前述（第二の二）の如くその後退は一部を除き實施せられず。然れ共其の意氣軒昂たるものありたり。哈爾濱に於ては各地よりの避難邦人輻輳し相當の混亂を呈しありたり。

2. 開拓團

齊々哈爾地區及其の以遠の開拓團は避難を開始せる如きも交通不便なりし關係上師團司令部の齊々哈爾出發迄は殆んど其の姿を見ず。哈爾濱―牡丹江間に於て目撃せる避難開拓團員家族の悲惨なる姿は正視するに忍びざるものあり。

3. 軍人軍屬の家族

軍人軍屬の家族は一部を除き哈爾濱及其の以遠に後退せしめ大部分は哈爾濱に集結、師團が武装解除を受くる迄は直接之を保護せしめ、其の以後に於ては軍屬二名を附し之を世話せしめたり。

八八

三 滿洲國政府機關の狀況

開戦後に於ても齊々哈爾省公署當局はよく日本軍に協力せり。

三 滿洲國軍及警察の狀況

開戦直後に於ける滿洲國軍司令官の態度は一抹不安の狀を呈し其の協力態度積極的なりしも滿軍全般としては表面平靜を呈せり。但し軍事顧問の言によれば在昂々漢滿軍工兵隊の動向疑問なりとの事なりしも該部隊は遂に叛亂せる事を停戦後聞知せり。

警察の態度は概ね積極的なりき

四 滿人、鮮人の狀況

一 滿人

0823

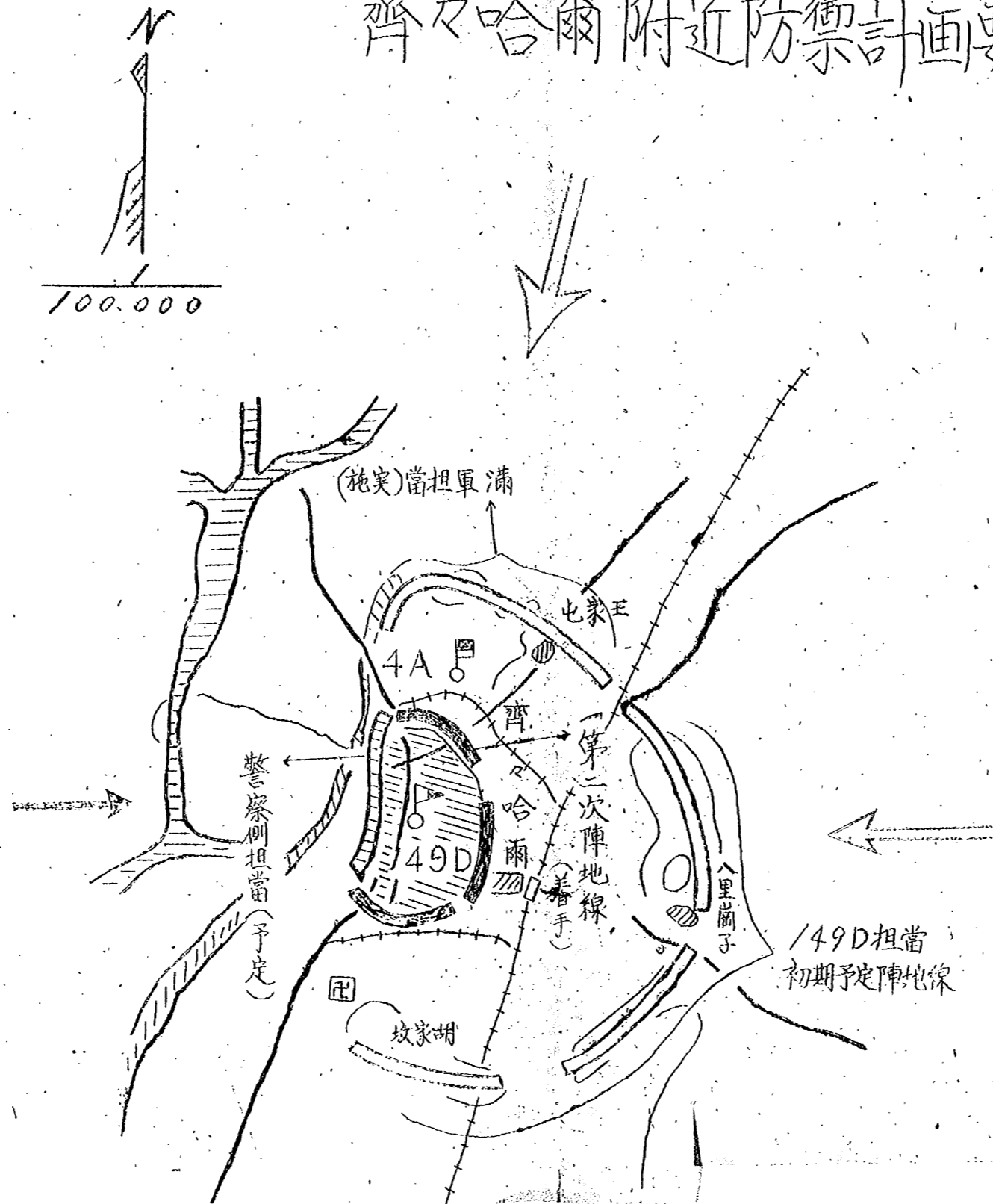
齊々哈爾附近滿人は比較的平靜なりしも開戦前より「日本膨脹」の流言は稍活潑に行はれ居たり。停戦後に於ける滿人の態度は一部反日憤慮のものありしを耳にするも一般には同情的態度の者多かりき。

2 鮮 人

開戦と共に家財を纏めて後方に避難せる者多し。牡丹江移動途中海林西方河岸の鮮人開拓團は日本軍に對し深く同情し積極的援助を惜まざりき。

齊々哈爾附近防禦計畫要圖

附圖



0825